



# 日本福祉心理学会 第18回大会 オンライン

## いまこそ福祉心理学と

— あらたな心<sup>こころみ</sup>観 —



最新情報をFaceBookでも紹介しています。  
「日本福祉心理学会第18回大会準備委員会」で検索ください。

申込締切：11月22日（日）

※但し400名に達し次第終了予定、非会員の申込開始は大会申込確認

2020年12月  
4日（金）・5日（土）・6日（日）  
会場 オンライン



## 目次

|                            |    |
|----------------------------|----|
| ご挨拶                        | 1  |
| 大会プログラム概要                  | 2  |
| I 大会参加申込                   | 3  |
| II 大会に関する諸費用               | 4  |
| III 研究発表までの流れ              | 5  |
| IV 大会参加方法：大会URL及び資料のダウンロード | 7  |
| V プログラム                    | 9  |
| 大会連絡・確認                    | 23 |

<FaceBook>

大会の最新情報をお知らせする FaceBook も閲覧ください

<https://www.facebook.com/日本福祉心理学会第18回大会準備委員会-111264840703078/>

## ご挨拶

日本福祉心理学会第18回大会の開催を2020年12月5日(土)、6日(日)の2日間、4日(金)の準備研修や理事会を含めれば3日間をオンラインでお引受けすることになりました。本来は東京都内にある帝京平成大学にて開催予定でしたが、COVID-19の影響により対面での実施の困難性から急遽小規模ではありますが学会員や福祉・心理現場の方々を少しでも応援できるようオンラインでの実施へと至りました。

これまで、本学会のテーマは福祉心理学の基盤を表明するものが続いていました。例えば第17回大会「ひとの一生を支える福祉心理学」などです。しかし、本大会では、これまででない世界情勢を踏まえ、心理学の方向性が一部変貌しうる状況に至っていることから『どのような心理学が福祉とともにあるべきか』について、これまでの基盤を再考する場とすべく「いまこそ 福祉心理学と」という問いかけにも模したテーマに加え、新たな時代へと向かうべく副題として『新たな<sup>こころみ</sup>心観』を付しました。

副題には深い思いが込められています。一つ目には、これまででない方法での学会への試みがあることで、オンラインでの実施は本学会では初めての試みであり、様々な当日の不具合も想定されます。しかし、学会員や福祉従事者のみなさまへの今後の持続的な寄与を考えたときに、果敢に新たな学会運営を検討する今大会の意義は大きいと考えました。そのため今大会ではご不便をおかけする点も踏まえ、参加費を無料とし、学会員の皆様等のお力添え(皆様の回線整備含)も大いに募るものでもあります。

二つ目には、オンラインだからこそ、オンラインにしかできない学会にしようという試みです。わが国は、諸外国と比べればCOVID-19への対処はまだよいほうではないと言われることがありますが、まだまだ予断を許さない状況です。そこで、感染者や死者数が多く、大統領でさえ感染したとされるアメリカにおける心理学や福祉の分野では、いま、どのような観点が求められているかを知ることは、我が国における福祉心理学の視野を少しでも広げることにつながるのではないかと考えました。そこで、今大会では、オンラインだからこそつながることができるアメリカの複数の専門職を招待します。

三つ目には、新たな学会大会のあり方を構築するために学会内福祉心理士会・委員会とも協力し合うという試みです。これまで単体での実施となっていた各委員会のワークショップ等ですが、今回は緊急的な対応ということもあり、実行委員会と協力し合い、「いまこそ 福祉心理学と」ともに歩めるテーマを設定しました。例えば、福祉心理士会との協同により「公認心理師における福祉心理士のあり方」として会員とともに検討する場や「社会福祉士養成課程における教育内容の見直し」として新たな制度の方向性を確認する場等の他、学会のさらなる発展を意図して組織された学会大会・研修会企画委員会との連動企画などがあります。

以上を踏まえ、本大会では、前述したように会員、並びに福祉・心理現場において日々奮闘されている従事者の皆様に少しでも応援できる場にしたいと思っています。そして、福祉心理学に関わるわが国を超えた方々と集うことにより、あらたな福祉心理学の本質を観る機会になることを願っています。

2020年10月

日本福祉心理学会第18回大会実行委員会 委員長 米川和雄

# 大会プログラム

| 12月4日（金）        |   | 12月6日（日）  |   |  |
|-----------------|---|---|---|--|
| 9：30<br>(17：30) | ZOOM ミーティング①（事務局）<br>17：30～19：30<br>理事会<br>18：30 受付開始   | 9：30 受付開始   |   |  |
|                 | ZOOM ミーティング②（実行委員会）<br>19：00～21：00<br>「初心者のための ZOOM の使い方」<br>米川和雄氏（オンラインサロン：スクールソーシャルワーカーズ・ウェルビーイング・プロジェクト主宰） | 10：00～10：40 【実行委員会企画】<br>「アメリカにおける心理的支援等の最前線」<br>招待講演Ⅰ（通訳付）<br>Where and How to Focus: Advocating for the Needs of School Social Workers.<br>（スクールソーシャルワーカーを擁護する方向性）<br>Robert Lucio 氏（アメリカ SSW 協会理事） |   |  |
| 11：00           | 12月5日（土）<br>ZOOM ミーティング（事務局）<br>11：00～12：00<br>各委員会ミーティング   | 11：10～11：50 【実行委員会企画】<br>招待講演Ⅱ（通訳付）<br>Needs for Psychology Training to Design Effective and Humane Policies.<br>（心理学を政策に活かすトレーニングの必要性）<br>Judith Glassgold 氏（元アメリカ心理学会 アソシエイトエグゼクティブディレクター）          |   |  |
|                 | 12：00 受付開始<br>※必ず参加者名に<br>受付番号 + お名前 + 所属先 を記載ください。<br>12：30～12：40<br>開会あいさつ<br>総合司会・実行委員会委員長<br>学会理事長        | 12：00～12：20 【実行委員会企画】<br>ランチョンセミナー<br>「バーンアウト防止のためのセルフケア—身体を使ったマインドフルネス—」<br>Hiromi Willingham 氏<br>（ジョージア州公認臨床心理セラピスト）   |   |  |
| 13：00           | 12：40～13：20 【実行委員会企画】<br>基調講演「コロナ禍においても職員・地域と一丸になって理想の福祉を追求する」<br>山本健明 氏<br>（秋川流域生活支援ネットワーク副理事長）              | ZOOM ミーティング（事務局）<br>総会<br>12：30～13：30 （1）学会総会<br>13：30～14：00 （2）福祉心理士会総会  |   |  |
|                 | 14：00   | 13：30～14：15 【実行委員会企画】<br>講演「スクールソーシャルワーカーとスクールカウンセラーの動向」<br>奈須智明 氏（文部科学省初等中等教育局児童生徒課 生徒指導 第一係長）   | 14：00～14：45 【福祉心理士会×実行委員会企画】<br>講演「社会福祉士養成課程における教育内容の見直し—実習内容に焦点を当てて—」<br>道念由紀 氏（厚生労働省社会局総務課 社会福祉専門官）   |  |
| 15：00           | ZOOM ミーティング<br>14：30～15：30<br>研究発表<br>※ポスターは全日程で掲示されます。<br>※研究発表詳細はホームページに掲載します。                              | 15：00～15：40<br>【学会大会・研修会企画委員会×実行委員会企画】<br>報告<br>「コロナ禍における社会的養護経験者の実情」<br>司会 井出智博氏（北海道大学大学院 准教授）<br>報告者 長瀬正子氏（佛教大学 准教授・IFCA）<br>社会的養護経験者（IFCA ユース）   |   |  |
|                 | 16：00   | 15：45～16：45<br>【福祉心理士会×学会事務局×実行委員会企画】<br>ワークショップ<br>「今後の公認心理師における福祉心理士のあり方」<br>司会 大西 良 氏<br>（福祉心理士会養成教育機関制度事務局長）<br>話題提供 今村扶美 氏<br>（国立精神・神経医療研究センター病院臨床心理部 臨床心理室室長）他                                  | 15：00～15：40 【実行委員会企画】<br>パネルディスカッション<br>「コロナ禍の医療・福祉領域におけるソーシャルワークへの影響と今後の展望」<br>司会 小松美智子氏（武蔵野大学客員教授）<br>登壇者 村本ゆう子氏（東京女子医科大学病院）<br>齋藤 久美子氏（東京都健康長寿医療センター）<br>他 3 名 |  |
| 17：00           |   |   | 15：45<br>閉会挨拶 大会終了  |  |

## I 大会参加申込

### <大会参加申込専用サイト>

リンク先短縮URL

<https://formsgle/d5vlpMINAD31oT8He8>



※大会参加申込のサイトです。当日の大会参加のURLではありません。

### 1. 会員 大会参加申込

大会参加申込期限は、全体の定員 400 名になるまで、又は 11 月 22 日（日） 昼 12:00 までとなります（当初より延長しております）。但し、研究発表の申込期限は 11 月 10 日（火） 昼 12:00 までとなります。参加申込は、web サイトからの「電子申込」のみとなります。これまでの大会のように郵送やメールによる申し込みは受け付けておりませんのでご注意ください。大会参加申込希望者は、学会のホームページに掲載される「大会参加申込」をクリックし申し込んでください。参加申し込みはスマートフォンやケータイからも可能です。

なお参加申込時においては会員番号と所属団体名が必要となり、学会当日においてはお名前その他、受付番号と所属組織名の表示が求められます。

※オンライン大会参加申込を提出した会員は第 18 回大会に参加したとし、学会ホームページに証明書を掲載いたします。大会終了7日以内に印刷をお願いします。

※上記証明書は福祉心理士等の資格更新の際、第 18 回大会に参加したことの証明になります。

※申込期限内の申込であっても先着順となるため、後日に受付できない旨の連絡をする場合がございます。

## 2. 非会員 大会参加申込①（職能団体等所属のみなさま）

このたびの学会には当事者のみなさまが参加されること等、情報の扱い方に配慮が必要となります。そのため非会員の方々の参加には、情報活用や社会活動に関する倫理規定を設けている学会や職能団体等の会員であることが優先条件となります。国家資格又は団体資格を発行している団体には基本的に倫理規定が設けられています。どの学会が可能かの回答はしませんので、所属する学会が規定を設けているかどうかを各自でご確認ください（本学会大会の案内がなされた団体会員のみなさまは基本的に該当しています）。

なお申込時には所属団体名とその会員番号が必要となり、学会当日においてはお名前その他、別途大会実行委員会側が付与する受付番号と所属組織名の表示が求められます。

大会参加申込期限は、11月22日（日）昼12：00まで又は定員400名に達するまでです。

※申込期限内の申込であっても先着順となるため、後日に受付できない旨の連絡をする場合があります。

## 3. 非会員 大会参加申込②（職能団体等所属でないみなさま）

上記、1及び2の申し込みを踏まえ、参加の空きがある場合、職能団体等に所属をしていない国家資格（公認心理師、社会福祉士、精神保健福祉士、保育士等）を所持する方々等の参加を募ります。申し込み期限は、11月16日（月）～22日（日）昼12:00までとなります。全体の定員が400名になった時点で申込は終了します。

なお申込時には所属団体名とその会員番号が必要となり、学会当日においてはお名前その他、別途大会実行委員会側が付与する受付番号と所属組織名の表示が求められます。

※申込期限内の申込であっても先着順となるため、後日に受付できない旨の連絡をする場合がございます。

## II 大会に関する諸費用

新型コロナウイルス感染拡大・終息の見通しが立たないことから、今大会はオンラインでの開催となります。従来の規模の学会開催ではないことから無料開催となります。大会参加費無料は会員の皆様や福祉・心理従事者様を応援するため、さらにはオンライン環境整備を踏まえているとお受けくださると幸いです。オンライン開催が初めての試みであることからご協力をお願いしたいと考えております。

### Ⅲ 研究発表

#### 1. 発表資格

筆頭発表者は、次の要件を満たしていることが必要です。なお当日発表で筆頭者が発表できない場合においても発表する連名者が会員であることが求められます。

- (1) 2020年9月20日(日)現在で本学会の会員であること。

※会員でない方は速やかに当学会への入会を済ませ、正会員の資格を取得してください。(入会手続きについて <http://www.janphs.jp/guide.html>)

- (2) 2020年度会費を2020年10月末までに納入していること。

#### 2. 発表形式等

- (1) 今大会の研究発表は以下2つとなります。

- ①ポスター発表：オンラインでのPDFにおけるポスター掲示

- ②同時送信発表：オンラインでのパワーポイントによる同時送信での発表

- (2) 設営上のため人数把握が必要ですので、必ず予約申込を行ってください。

オンライン発表希望者の人数によっては発表者人数の調整や、ポスター発表から同時送信発表への変更依頼をさせていただくことがあります。

- (3) 発表形式：タイトル(発表者名、所属の記載；筆頭著者は学会員)、研究目的(背景)、方法(対象・調査内容〔手続き〕・倫理的事項・分析方法等)、結果、考察(課題) ※人を対象とする研究の場合、倫理事項の記載必須

#### 〔ポスター発表〕

- (1) ポスター発表はホームページ上に掲示する形式を取ります。掲示時における滞在等は必要ありません。

- (2) ポスター発表は、従来のポスター発表においてパネルに掲示する幅90cm×高さ200cmサイズのポスターをA4サイズのPDFにするイメージで作成し提出してください。

- (3) ポスター発表における質疑応答は実施いたしません。

#### 〔同時送信発表〕 (口頭発表)

- (1) 同時送信発表は、ZOOMの画面共有を活用した発表者側の操作による同時送信(生配信)での発表を想定しております。

- (2) 同時送信発表の発表時間は、発表10分、質疑応答3分です。

- (3) 同時送信発表は、PC, iPad, iPhone, Androidでの参加が可能ですが回線不安定による視聴の困難性が想定されるため、同時送信発表は、原則有線によるオンライン回線が安定した状態での発表が条件となります。無線での参加を希望される場合は回線

速度安定のご確認をお願いします。回線が不安定の場合、ポスター発表（パワーポイント掲示）に切り替えていただくことがあります。

- (4) 筆頭発表者は一人1回の発表に限ります。連名発表者についてはこの限りではありません。

### 3. 留意事項

- (1) 人を対象とする事例研究・調査研究等の原稿においては倫理的配慮が果たせていることを必ず記載してください。
- (2) 同時送信発表は、発表者の状況により発表時間等の設定が若干変更される可能性があります。
- (3) 同時送信発表においてオンライン回線が不安定な方のためにリアルキャンパスとして東京家政大学板橋キャンパスを準備していますので個別にご相談ください。
- (4) 同時送信発表者の方は大会事務局と事前研修にて発表前日の回線確認を予定しています。
- (5) オンライン発表方法に慣れていない方は事前研修会にご参加ください。

### 4. 発表原稿の提出

- (1) 今大会は本情勢を鑑み、ポスター発表、同時送信発表共に抄録原稿の提出ではなく、それぞれの発表原稿の提出となります。
- (2) ポスター発表原稿の提出期限は、11月22日（日）12:00  
同時送信発表原稿の提出期限は、11月30日（月）12:00とします。以後の受付はいたしません。人を対象とした研究の場合、倫理的配慮の記載がない等の場合、発表を中断させていただくことがありますのでご注意ください。
- (3) 各提出期限に遅れたものについては、受け付けませんので、ご注意ください。
- (4) ポスター発表はPowerPoint等をPDFに変換した形式、同時送信発表はPowerPoint形式でEメールにて提出して下さい（発表原稿の提出は電子ファイル形式のみ）。
- (5) 発表原稿の受付の確認は、参加申込時に記載されている連絡先又は原稿を提出されたメールに、受付完了のお知らせをいたします。
- (6) Eメールの件名は、「日本福祉心理学会第18回大会ポスター（もしくは同時送信）発表原稿（主発表者の氏名）」としてください。

第18回大会実行委員会事務局 japhs\_conference@yahoo.co.jp

## IV 大会参加方法：大会URL及び資料のダウンロード

### 1. 大会申込後の対応・参加前準備

大会申込後、実行委員会から受付番号と大会当日専用ホームページURL（以下、大会専用URL）がメールで送付されます。大会当日7日間前を過ぎても受付番号等の連絡のない場合は、迷惑メールを確認の後、実行委員会へお問い合わせください。

上記大会専用URLが届きましたら、ぜひご覧ください。ZOOM活用のための資料がございますので、環境整備のために必ずご確認ください（大会2週間前確認推奨）。また大会専用URL内の「招待URLと資料ページ」は、大会参加のための招待URL（ミーティングリンク、ウェビナーリンク）や資料をダウンロードできます。このページへ入るためには、パスワードが必要です。パスワードについては、大会3日前程度に申込者にお知らせいたします。

大会当日の参加時には、参加毎に参加者名には必ず受付番号を名前の前に付けてください。受付番号のない場合、自動的に退出させられます。

受付番号 お名前 所属名  
例) 07 福祉太郎 東京都心理施設

### 大会当日の専用ページイメージ



大会専用トップページに留意事項やZOOM活用のための事前基礎資料がありますので必ずご確認ください。当日の回線不通に関するフォローはできかねますので不安な方は4日(金)19:00～21:00の準備企画研修にご参加ください。なお回線が不安定かどうかについては回線速度がインターネット上で測定できますのでご確認ください。ZOOM活用単体にはあまり高い通信精度は求められていませんが、通常25mbps以上が望ましいとされています（マンション共有型100mbps以上）。

ZOOM参加のための招待URLや資料が掲載されている「招待URL 資料」のページへいき、パスワードを入力すると催し毎の参加のための招待URLや資料へアクセスできます。

### 大会参加の流れ

|  |
|--|
| <b>1. 大会参加申込 11月22日（又は定員達成迄）</b><br>※日本福祉心理学会ホームページより<br><a href="https://janphs.jp/meeting/janphs18th-info/">https://janphs.jp/meeting/janphs18th-info/</a>   |
| <b>2. 大会前：受付後番号と大会URLの確認</b><br>申込後に実行委員会より、受付番号と大会専用URL、参加ページにアクセスするためのパスワードをお知らせします。パスワードのみ大会当日7日間前にメールでお知らせする予定です。ですの大会7日間前になっても連絡の届かない場合は実行委員会までご連絡ください。<br>※実行委員会<br><a href="mailto:japhs_conference@yahoo.co.jp">japhs_conference@yahoo.co.jp</a> |
| <b>3. 大会前：専用ホームページから事前資料の確認</b><br>大会専用ホームページには事前に確認いただくためのZOOM活用の資料の閲覧ができます。環境整備も含め必ずご確認ください。   |
| <b>4. 大会当日（参加時）：受付番号＋名前＋所属</b><br>当日、招待URLから学会へ参加いただけますが必ず、参加者の名前には 受付番号を入れてください。<br>※受付番号のない場合、自動的に退出させられます   |

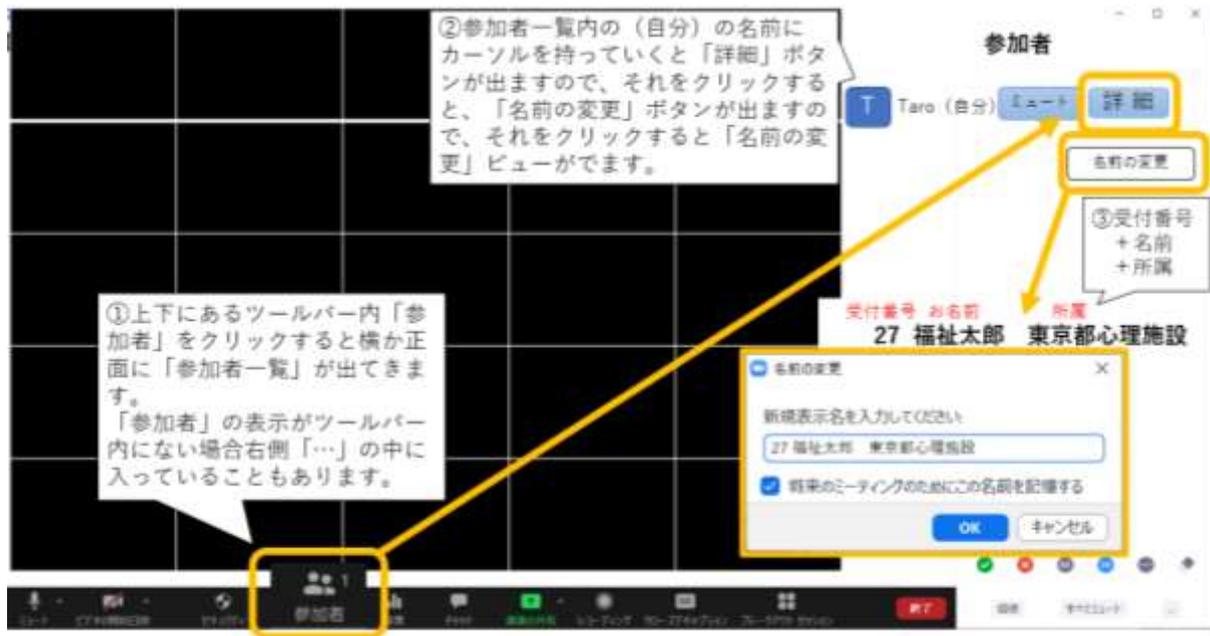


「招待 URL 資料ページ」からの大会当日 ZOOM 活用の過程（ZOOM 参加前名前登録）

## 2. ZOOM 参加時の留意点（受付番号と名前の掲示）

本大会はすべてオンライン上での実施となりますので、事前の ZOOM 資料にもありますように参加時には**受付番号+お名前+ご所属**を記載いただきますようお願いいたします。とくに**受付番号の記載がない場合は、事務局側で退出**させていただく場合がございます。上記の ZOOM 参加前の名前登録の他、ZOOM 参加後の名前登録の方法は下記図のとおりです（どちらかができれば名前登録は大丈夫です）。

その他、講演やワークショップ内容によっては途中参加の難しい催しも出るかもしれません。とりわけ、情報の扱い方に留意する講演等がございますので、ご協力の程よろしくお願ひします。



## V プログラム

12月4日(金) 19:00~21:00

【実行委員会企画】

学会大会準備企画研修

# 「初心者のための ZOOM の使い方」

講師 米川和雄 氏 (オンラインサロン：スクールソーシャルワーカーズ・  
ウェルビーイング・プロジェクト主宰)

本大会は、そのすべてがオンラインで行われます。会員の皆様等におかれましてはオンライン媒体である“ZOOM”を初めて利用する方もいることでしょうか。そのような方でも安心して参加できるように、事前に申込者には「活用の資料」を配布します。しかし、記述資料だけでなく、実際に話を聞く中で理解したほうが良いという方々がいることを踏まえ、大会前日に基本的な操作内容を学習する場を設けました。

2クールに分けて実施しますので、参加しやすいほうでご参加ください。大会参加申し込みをされた方のみ参加ができます。事前登録は必要ありません。両クールに参加されても構いません。内容はパソコンをメインにした操作方法となります。

●第1クール：19:00~20:00

●第2クール：20:00~21:00

※参加者数により時間が前後する場合があります。

〔プログラム〕

- 1) 名前の入力の仕方
- 2) 回線速度確認
- 3) ZOOMの画面の見方
- 4) ツールバーの確認
- 5) 音声と映像の微調整(2つの機器につなぐ留意点)
- 6) 画面共有の使い方(研究発表者用)
- 7) ミーティングとウェビナーの違い

※大会当日の回線不通等のフォローはありませんので ZOOMが初めての方はできるだけご参加ください。

※オンライン回線の安定目安(ZOOM社では通信回線は低い設定で可能とされていますが)は、戸建(マンション個別)20Mbps以上(25Mbps程度がベター)、マンション(共有型)100Mbps以上です。スマホや旧機器などは回線状況により通信が難しいこともあります(一般的に10~15Mbps程度)。結果、回線状況によって学会当日に視聴が不調となる可能性がありますので、本研修より2週間以上前に各自で事前確認と環境整備への対処をされることを推奨します。なおインターネット上で「インターネット回線速度測定」と検索すると無料測定サイトが複数でできます。

学会員の皆様と情報共有する総会、理事の皆様と情報共有する理事会、福祉心理士の皆様と情報共有する福祉心理士会総会等が下記の日程でございますので、ご参加の程よろしくお願いいたします。

ご参加時の参加者名 **受付番号 お名前** を必ず明記ください。  
 それぞれ、会員、理事、福祉心理士以外の方の参加はできません。  
 全て事務局側運用の ZOOM ミーティングとなります。

## 12月4日（金）17：30～19：30 **理事会**

対象：本学会理事のみなさま

今学会での理事会は4日夕方と例ねんよりも早い期日になっております。

※メールを用いた会議運用をも検討しております。

## 12月5日（土）11：00～12：00 **各委員会**

対象：各委員会委員のみなさま

ブレイクアウトセッションをもちいて各委員会におけるご対応となります。

実施における各委員会委員への連絡等については、事前に各委員会内でのご確認をお願いいたします。

## 12月6日（日）12：30～13：30 **学会総会**

対象：会員のみなさま

※総会等のみご参加の場合も大会申込をお願いいたします。

## 12月6日（日）13：30～14：00 **福祉心理士会総会**

対象：福祉心理士のみなさま

※終了後ウェビナーをもちいた企画講演があります

「福祉心理士」「准福祉心理士」の皆様へ

福祉心理士資格認定委員会 委員長 富樫ひとみ

大会に参加した場合、資格更新のためのポイントが付与されます。

ポイント付与の詳細については、今後、大会ホームページ等に掲載いたします。

【お問い合わせ先】「福祉心理士」資格認定委員会 担当 富樫ひとみ

茨城キリスト教大学 富樫研究室 Email：ht-togashi@icc.ac.jp

## 基調講演

# 「コロナ禍においても職員・地域と一丸 になって理想の福祉を追求する —理念とクレドで支える障害者支援と職員—」

講演 山本健明氏 (NPO 法人 秋川流域生活支援ネットワーク 副理事長)

秋川流域生活支援ネットワークは、東京都西部にある あきる野市、日の出町、檜原村という秋川流域を中心に展開する障がい者支援事業（9事業所）のネットワークです。2002年から障がい者の方々と事業所の職員が共に学びを得ながら、障がい者の方々が地域で生活できることを目指し、地域社会と地域の障害保健福祉の発展に寄与することを目的として設立された法人です。

私たちの法人でも、このコロナ禍において、マスク着用やソーシャルディスタンスを取りながらの支援の他、場合によっては防護服を着用した支援が求められる等、支援のあり方は変化しました。しかし、そのようななかでも変わらないものがあります。

それは私たちの理念「地域で生きる夢と幸せをともに実現する」、福祉への「想いをともに」実現するための6つの使命と役割、そして職員一人一人の行動指針であるクレドです。

コロナ禍においても変わらないものは、私たちが障がいのある方々の地域生活を支えていくことです。刻々と変化する状況の中で「いま、必要なこと」を遂行していくために事業計画も現場に即した柔軟さが求められます。大変な中だからこそ、職員を支えることのできる理念や行動指針を持ち合わせていることが求められます。つまり、どのような状況下にあっても利用者だけでなく職員を支え続けるものが理念やクレドなのです。

**上司の指示よりクレドを優先する！ 経営判断や人事考課も理念とクレドに基づく！**

このように言うと厳しそうなイメージが出るかもしれませんが、実は職員と共に作り上げてきたこのクレドは職員も大好きなのです。我々の福祉への理想に対して決してぶれず、追及する姿勢を示すものだからです。

このたび貴重な機会をいただきました講演では、様々な援助技術が検証されるなか、私たちの理念やクレドの実践が、壮大な福祉心理学に僅かながらも寄与できる視座を共有する場にできればと願っております。

講演

## 「スクールソーシャルワーカーとスクールカウンセラーの動向」

講演 **奈須智明** 氏 (文部科学省初等中等教育局児童生徒課生徒指導 第一係長)

現在、教育領域においても多職種連携が進んでおり、児童福祉領域との関りや社会福祉制度を活用した援助も少なくない。そこで、本講演では、福祉や心理の教育領域の専門職であるスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーに係る国の事業について、下記のポイントや児童生徒を取り巻く諸課題の現状も踏まえ、求められる専門性や今後の展望について講演いただく。この他、時間のゆるす限り、関連する法制度の最新動向、貧困対策における学校のプラットフォーム化やチーム学校の動向、学校の教職員の理解促進の必要性等についてもお話しいただく予定である。

〔ポイント〕

- 1) 各事業の動向：予算・人員数等の推移、配置状況・所持資格等の推移、実施要領
- 2) 上記に関わり、目標人員と実際の動向
- 3) スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーに求められる専門性
- 4) この他、関連する法制度や事業等の最新動向等

1

## 研究発表

今学会の研究発表は初日5日（土）に行います。

### ●ポスター発表…ホームページ上に掲載します

ホームページへのご案内は大会3日前程度にメール及びホームページ等

お知らせ致します。

### ●口頭発表（オンライン同時送信）…発表10分、質疑応答3分

発表者、聴講者ともに 受付番号+お名前+所属先 の表示が必要となります。

口頭発表者の方は必ず有線でのパソコン発表、インターネット環境整備（20Mbps以上）への調整をお願いします。

12月5日(土) 15:45~16:45

【福祉心理士会 × 学会事務局 × 実行委員会 企画】  
(養成教育機関制度事務局) (テキスト編集)

## ワークショップ

### 「今後の公認心理師における福祉心理士のあり方」

現在、心理士の国家資格化が進み、本学会員における公認心理師取得者も増えている。一方で、公認心理師養成の一科目として位置付けられた福祉心理学であるが、まだまだその学問的確立は脆弱である。本ワークショップでは、先の公認心理師の会ニューズレター(9月14日号)にて「『公認心理師の養成や資質向上に向けた実習に関する調査』をめぐって」にて事業責任者として座談会に参加された国立精神・神経医療研究センター病院今村扶美先生より、その重要なデータや今後公認心理師や養成に求められる視点を提供いただき、その後、学会員の皆様と福祉心理士の専門性の担保において議論を踏まえ検討していく場を持ちたい。さらに時間があれば2021年度発刊予定の「福祉心理学」テキストからの「福祉心理学のエッセンス」を踏まえてそれらの議論を重ねたいとも考える。

司会 **大西 良** 氏 (筑紫女学園大学准教授/福祉心理士会養成教育機関制度事務局長)

話題提供 **今村扶美** 氏 (国立精神・神経医療研究センター病院臨床心理部臨床心理室室長)

話題提供 **米川和雄** 氏 (本学会事務局「福祉心理学」テキスト編集担当)

※今後の本学会の根幹となる「福祉心理学」出版(日本福祉心理学会 事務局編集、福祉心理士会・研修研究委員会監修)が編集者企画のもと動いております。本学会員の方々を中心に他に類を見ない福祉心理学の基盤や広がりについて紹介しています。福祉心理学の“福祉”の焦点から意思決定支援、福祉心理アセスメント、各心理療法、各福祉領域における実践の視点等を網羅したこれまでにない内容となっております。本書を用いた福祉心理士養成だけでなく福祉分野の公認心理師養成をも視野に入れています。明石書店より2021年3月頃出版を予定しています。

12月6日(日) 10:00~10:40

ZOOM Webinar: Connecting Japan and America

11:10~11:50

〔通訳付〕

12:00~12:20

【実行委員会 企画】

招待講演

## 「アメリカにおける心理的支援等の最前線」

Robert Lucio

*Where and How to Focus: Advocating for the Needs of School Social Workers.*

Judith Glassgold

*Needs for Psychology Training to Design Effective and Humane Policies.*

この記述をしている中でも COVID-19 の影響を最も受けているアメリカにおいては、累計感染者 750 万人、死者数 21 万人を超えている。日本では 10 月時点で 累計感染者数 8 万 7 千人、死者数 1,600 名を超えている。このような情勢下においてアメリカにおける心理や福祉の方向性はどのように向いているのか、それを理解することは、わが国における今後の福祉心理学のスタンスを検討する一助になると考える。

そこで、本招待講演では 2 名の登壇者をお呼びした。一名は、スクールソーシャルワーカーを支える職能団体の理事 (SSWAA: School Social Work Association of America) である Robert Lucio 氏である。法律にも視野を向けた委員会 (Legislative Committee) の委員長でもある。Robert 氏が、現在、どのような視点を持ち、個人として職能団体として現場のソーシャルワーカーを支えているかは本学会においても貴重な情報となり得るだろう。

もう一名は、アメリカ心理学会においても心理学者として様々な政策的な関与を通じて、よりよい心理学的支援の提供に取り組んできた Judith Glassgold 氏である。2020 年 10 月にまとめられた American Psychology Volume 75, Issue 7 でも新たな論文が掲載された。将来、心理士にどのような専門性が必要であるかの視点は、本学会においても貴重な情報となり得るだろう。

ところで、本実行委員会では、アメリカからの講演招待へのフォローとしてアメリカ在住のメンバーを加えたが、COVID-19 の影響から通常以上のストレスにさらされている中で、子ども等だけでなく対人援助職等に対してストレス対処、バーンアウト対処として用いられているマインドフルネスがあるとの情報共有が行われた。そこで、ランチョンセミナーとして、ジョージア州公認の臨床心理セラピスト、ハコミ研究所トレーナーの Hiromi Willingham 氏より支援現場の実践について情報提供をいただく。従来のマインドフルネスでは、感情等に焦点を当てることがあるが、ストレス状況下において、それでは緊張感が高まってしまうこともある。このことから、ここでは心身のバランスを取り戻すために、身体に目を向けたマインドフルネスについて焦点を当てる。そして、簡易的にはあるがそれを体験する場も持ちたい。

ランチョンセミナー

「バーンアウト防止のためのセルフケア—身体を使ったマインドフルネス—」

Hiromi Willingham 氏      ジョージア州公認臨床心理セラピスト

Invited lecture I

## Where and How to Focus: Advocating for the Needs of School Social Workers

**Robert Lucio**

Associate Professor at Saint Leo University,  
the Board of Directors as the Standards &  
Practice Representative in SSWAA



*In this invite lecture, Dr. Lucio will share his point of view and insight, if including SSWAA, when it comes to “**School Social Work service delivery under COVID-19 in the US**”. After this lecture, we hope that human service professionals including school social workers consider further action steps to address school settings including children, and more the future efforts of our association and us as its members can be considered.*

***Robert Lucio** has a Ph.D. in Social Work, is an Associate Professor at Saint Leo University (at the Undergraduate, Masters, and Doctoral level). He also serves as the Legislative Committee Chair for **SSWAA (School Social Work Association of America)** and is **on the Board of Directors as the Standards & Practice Representative**<sup>1)</sup>. Then Dr. Lucio is a **well-established social work advocate**, and throughout his numerous involvements, he continues to support school social workers in order to better the education system for youth<sup>1)</sup>.*

*The above cited references are below:*

- 1) <https://www.sswaa.org/post/advocacy-a-ripple-effect>
- 2) <https://www.nippon.com/ja/japan-data/h00673/>

## Invited lecture II

# Needs for Psychology Training to Design Effective and Humane Policies.

**Judith Glassgold** Rutgers University, Graduate School of Applied and Professional Psychology



*In this invited lecture, we want Dr. Glassgold to share her point of view and insights, when it comes to “The Need For Policy and Advocacy Training for Psychologists Due to Covid-19”.*

*Modifying human behavior is essential to halting the spread of COVID-19 and reducing its negative impacts on mental health. To assist in mitigating the physical and mental health impacts of COVID-19, psychologists need to transfer their knowledge to policymakers and be engaged in public policy and advocacy. Psychologists can better respond to these challenges if they see public policy and advocacy as an element of their professional knowledge and skills and are provided structured training in these skills.*

*After this lecture, we hope that human service professionals including psychologists consider further action steps to apply knowledge from behavioral health controlling the COVID-19 and other unidentified infectious diseases.*

**Judith Glassgold, PsyD.** is a licensed psychologist and an expert in applying psychology to problems of public policy, focused on mental health. She is a consultant to national civil rights organizations on legislative efforts to improve mental health at the federal, state and local levels. She is a part-time lecturer at **Rutgers University Graduate School of Applied and Professional Psychology**. Previously, she was also the **Associate Executive Director for Public Interest**, at the **American Psychological Association**, **Director of Professional Affairs** at the **New Jersey Psychological Association**, and a **Research Fellow** at the **Center for Health and Wellbeing** at **Princeton University**.  
*The above cited references are below:*

- 1) <https://www.linkedin.com/public-profile/in/judith-glassgold-psyd-45b29512?challengeid>
- 2) <https://chw.princeton.edu/people/judith-glassgold>

講演

## 「社会福祉士養成課程における教育内容の見直し —実習内容に焦点を当てて—」

講演 道念由紀氏 厚生労働省社会・援護局総務課 社会福祉専門官

社会福祉士養成課程の教育内容等の見直しに関しては、社会保障審議会福祉部会福祉人材確保専門委員会における報告書「ソーシャルワーク専門職である社会福祉士に求められる役割等について」（平成30年3月）を踏まえ、地域共生社会の実現を推進し新たな福祉ニーズに対応する実践能力を有する社会福祉士を養成するため、ソーシャルワーク機能を学ぶ科目の再構築等各般の養成カリキュラムの内容の充実化が図られ、令和3年度以降これに基づく新たな教育内容が実施される予定である。

本講演では、多くの学会員が社会福祉士養成に関する実習である「ソーシャルワーク実習」に関わることを鑑み、下記の4つのポイントを踏まえながらも180時間から240時間へと拡充されたソーシャルワーク実習に焦点を当て、現場でどのような観点から指導等を行う必要があるかを講演いただく。

〔ポイント〕

- 1) 社会福祉士養成課程の教育内容の見直しにおける背景と概要
- 2) 今般の見直しに伴う関係法令・通知等の改正内容の概要
- 3) ソーシャルワーク実習及びソーシャルワーク実習指導の見直しの内容
- 4) 法制度から捉える社会福祉士を始めとする福祉職に対する期待と課題

## 報 告

## 「コロナ禍における社会的養護経験者の実情 —当事者の声をもとに—」

2020年に発生した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）（以下、新型コロナ）の感染拡大は、社会的養護の当事者たちの生活においてどのような影響をもたらしたのでしょうか。私たちIFCA（NPO法人インターナショナル・フォスターケア・アライアンス）は、当事者ユースの参画のために活動する団体です。当事者への影響はどのようなものであるか、何に困っているのかを明らかにする必要がありますと考えました。

そのきっかけは、新型コロナウイルス感染症が拡大しつつあった2020年4月のIFCA定例会議でのある当事者ユースの言葉でした。

「休業を要請され自宅待機をしている」

「4月分は有給であるが、来月からの見通しはない」

「いろいろ不安で考え込んでしまい、夜も眠れなくなってしまう…」

私たちは、そのユースの言葉から何らかのアクションの必要性を感じました。IFCA内で声をかけたところ、当事者ユース、そしてともに活動をする専門職のメンバーの有志のチームができました。それが、IFCAプロジェクトCです。そして、チームで検討し、全国の社会的養護の経験のある若者（当事者ユース）にアンケート調査を実施することにしました。「C」には、コロナのCOVID-19、そして、つながる（Connect）という意味を込めています。

私たちの団体IFCAは、アメリカの社会的養護の当事者と継続的な交流を持っています。本調査においては、アメリカのフォスタークラブ（Foster Club）やCYC

（California Youth Connection）のユース・アドボカシーの方法から学び、調査の設計や発信の方法を検討しました。本講演ではその調査の結果を報告すると共に、社会的養護経験者の声を届けたいと思います。

なお、詳細な調査結果等については、IFCAのwebページ（<https://ifcajapan.org/>）内にある「ニュース&イベント」のページにあるプロジェクトCに関連するニュース記事からリンクを辿ってご覧いただけます。

○司会 **井出智博**氏（北海道大学大学院教育学研究院 准教授）

○報告者 **長瀬正子**氏（佛教大学社会福祉学部 准教授）  
社会的養護経験者（IFCA ユース）

パネルディスカッション

## 「コロナ禍の医療・福祉領域における ソーシャルワークへの影響と今後の展望」

2020年春、突然襲ってきたコロナ禍はすべての人々の生活に大きな影響を及ぼしている。とりわけ、新型コロナに対応する医療機関、対象者が急激に増えている福祉現場では、外出自粛・非常事態宣言がでて休むことなく機能し、支援がコロナ以前と同様にはできないという一段と厳しい状況となっている。

〔本ワークショップで注目する領域〕

医療機関 ①新型コロナ感染症患者支援 ②新型コロナ感染症患者以外の患者支援 ③認知症患者支援  
国際協力機関  
行政機関（生活困窮者・女性支援）

今回のワークショップでは、上記、医療・福祉現場に関する領域において、どのような状況が起きているのか、そのようななか、ソーシャルワーカーはどのような活動を求められているのか、実際から共通する困難性や課題を明らかにし、長期化するコロナ禍において、今後の医療・福祉現場でのソーシャルワーカーに求められる視座について展望する。

- 司会 小松 美智子氏（武蔵野大学客員教授）  
○登壇者 村本 ゆう子氏（東京女子医科大学病院）  
富川 由美子氏（東京女子医科大学八千代医療センター）  
齋藤 久美子氏（東京都健康長寿医療センター）  
他2名



本登壇者らは「女性の暮らしやすさを考えるソーシャルワーク研究会（暮らし研）」のメンバーです。DVなどによって心身ともに疲弊し、暮らしづらさを抱えた女性たちを主として医療現場にてソーシャルワークの視点から支援することについて深く関心を持つソーシャルワーカーで構成しています。暮らし研としての活動は、女性支援を行う支援者を支援して行くため、関連機関との連携を図り、ネットワークづくりを目標としています。

# ソーシャルワークの 理論と実践の基盤

**監修** 公益社団法人 東京社会福祉士会

**編集** 『ソーシャルワークの理論と実践の基盤』編集委員会



Tokyo Association of  
Certified Social Workers

本書は、理論や学問を素地として、ソーシャルワークの原理や倫理綱領、アプローチと価値観や技能を繰り返しながら高めていくソーシャルワークの公準的機能と自分らしさを紡ぎ合わせて、自らの実践を確立していくための基盤を記した一冊です。



- 第1章 社会福祉士
- 第2章 ソーシャルワーカーの素地
- 第3章 ソーシャルワークの基盤
- 第4章 ソーシャルワークの理論・アプローチ
- 第5章 生物・心理・社会モデルからのアセスメント
- 第6章 多職種連携とチームアプローチ
- 第7章 スーパービジョンの基本
- 第8章 専門職育成のためのスーパービジョンの深化
- 第9章 スーパービジョン演習

■定価(本体3,600円+税) ■B5判・272ページ  
■ISBN 978-4-89269-988-7



へるす出版

〒164-0001 東京都中野区中野 2-2-3 TEL 03-3384-8035 FAX 03-3380-8645  
<http://www.herusu-shuppan.co.jp>

# 北大路書房

〒603-8303 京都市北区紫野十二坊町12-8  
☎ 075-431-0361 FAX 075-431-9393  
http://www.kitaohji.com

## シリーズ 福祉心理学

心理学と仕事14 太田信夫監修 小畑文也編集 A5・152頁・本体2200円＋税 被援助者のニーズやその能力、心理的特性を理解して、状況に応じた支援を行うことが必要とされる福祉の現場。被援助者に「共感」し、支援者のメンタルヘルスや燃え尽き、共依存についても扱う。保育・児童福祉・精神障害・就労支援・看護介護の現場から、職業として福祉に携わることを紹介。

## 特別の支援を必要とする多様な子どもの理解

「医教連携」で読み解く発達支援―長崎大学子どもの心の医療・教育センター監修 吉田ゆり編著 A5・260頁・本体2200円＋税 教職課程コアカリキュラム対応の特別支援教育テキスト。「医教連携」の視点を中心に、子どもを理解・支援するアプローチを探る。教育や子どもの支援に携わる人に最適の1冊。

## 忙しいお母さんとお父さんのための マインドフルペアレンティング

一子どもと自分を癒し、絆を強める子育てガイド―スーザン・ボーゲルス著 戸部浩美訳 四六・264頁・本体2500円＋税 忙しくストレスフルな日常を過ごす親が、子どもといながらできる瞑想エクササイズを豊富に紹介。心理学者の著者が自らの子育てや親との実体験に触れながら、マインドフルネスを解説する。DL音声付。

## 精神科臨床とリハビリ支援のための 認知リハビリテーション

一統合失調症を中心に―松井三枝編著 A5・196頁・本体2600円＋税 社会復帰や生活機能に大きな影響を及ぼす注意、記憶、遂行機能等の種々の認知機能改善を目的とした、認知矯正療法、社会認知ならびに対人関係のトレーニング、メタ認知トレーニング他、認知リハビリテーションの各種技法を紹介。

## 公認心理師 標準テキスト 心理学的支援法

杉原保史・福島哲夫・東 斉彰編著 A5・308頁・本体2700円＋税 特定の学派に閉じこもらずバランスよく学ぶことを推奨し、各学派の理論と技法の最前線と普遍的な治療原理を理解できるよう配慮。並列的な解説に留めず、有機的・立体的な学びを目指す。公認心理師大学カリキュラム「心理学的支援法」に対応した教科書。

## 行列のできる児童相談所

一子ども虐待を人任せにしない社会と行動のために―井上 景著 四六・304頁・本体2300円＋税 児童相談所は閉鎖的な機関であるため、一般市民から理解されにくい。現職の公務員が実情を語るのも相当ハードルが高い。児童相談所の「裏側」を、元児童福祉司の著者が体験を交えてつぶさに描き出し、子ども虐待という問題の本質に迫る。

## 鬱は伝染る。

一最もありふれた精神疾患は、どのように蔓延ったのか、どうすれば食い止められるのか― M. D. ヤブコ著 福井義一監訳 定政由里子訳 A5・352頁・本体3600円＋税 投薬は最善策か。抑うつつの社会的文脈に着目し、洞察や行動パターンの変化こそが回復や予防になると説く。実践的エクササイズ付。

## 教師のレジリエンスを高めるフレームワーク

一柔軟な問題解決者となるための5つの視点― 深見俊崇編著 A5・144頁・本体2000円＋税 しなやかに折れにくい心を保持し、自ら進んで行動するレジリエントな教師をめざして、BRITEという体系化されたフレームワークを用い、問題解決にあたって必要となる行動や心身の健康を守るための方略を提供。

心理学って面白そう！  
どんな仕事で活かされている？

## シリーズ 心理学と仕事 [全20巻]

シリーズ 監修 太田信夫

●A5判・約160～220頁・予価2000～2600円＋税

- |             |            |            |             |                |
|-------------|------------|------------|-------------|----------------|
| 1 感覚・知覚心理学  | 2 神経・生理心理学 | 3 認知心理学    | 4 学習心理学     | 5 発達心理学        |
| 6 高齢者心理学    | 7 教育・学校心理学 | 8 臨床心理学    | 9 知能・性格心理学  | 10 社会心理学       |
| 11 産業・組織心理学 | 12 健康心理学   | 13 スポーツ心理学 | 14 福祉心理学    | 15 障害者心理学      |
| 16 司法・犯罪心理学 | 17 環境心理学   | 18 交通心理学   | 19 音響・音楽心理学 | 20 ICT・情報行動心理学 |



# スクールソーシャルワーク ハンドブック

実践・政策・研究

キャロル・リップレイ・マサット、マイケル・S・ケリー、ロバート・コンスタブル 著  
山野 則子 監修 駒田安紀、佐藤亜樹、厨子健一、半羽利美佳、比嘉昌哉、  
平尾桂、横井葉子 監訳  
ISBN978-4-7503-5111-7 ©20000円  
米国で長くスクールソーシャルワークのための不朽の教科書と評価されてきた基本図書で  
あり、かつ実践と教育に欠かせない必読書。

- 第1部 スクールソーシャルワークの歴史と全体像
- 第2部 スクールソーシャルワーク実践の政策的背景
- 第3部 スクールソーシャルワークにおけるアセスメントと実践に基づく研究
- 第4部 政策実践
- 第5部 ティア1(段階1)の介入
- 第6部 ティア2(段階2)の介入
- 第7部 ティア3(段階3)の介入

## 自分でできるコグトレ (全6巻。以下、続刊)

小学生の姉弟の毎日にかかる出来事を通して、困ったことや不安なことを「解決する力」を身につけるワークブックシリーズ。

### ②感情をうまくコントロールするためのワークブック

学校では教えてくれない 困っている子どもを支える認知ソーシャルトレーニング  
宮口幸治 著 宮口円 シナリオ制作 ISBN978-4-7503-5054-7 ©1800円

### ⑤感情をうまくコントロールするためのワークブック

学校では教えてくれない 困っている子どもを支える認知ソーシャルトレーニング  
宮口幸治 編著 井阪幸恵 著 ISBN978-4-7503-5055-4 ©1800円



## 子どもの性的問題行動 に対する治療介入

保護者と取り組む  
バウンダリー・プロジェクトによる支援の実際  
エリアナ・ギル、ジュニファー・ショウ 著  
高岸幸弘 監訳 ISBN978-4-7503-4918-3 ©2700円  
子どもが示す性的問題行動に対する理解と対応につ  
いて、理論から実践ツールの紹介、実際の治療ケ  
ースの記述までバランスよく解説。



## 「チーム学校」を実現する スクールソーシャルワーク

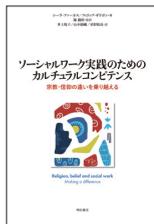
理論と実践をつなぐ  
メソ・アプローチの展開  
大塚美和子、西野緑、峯本耕治 編著  
ISBN978-4-7503-5052-3 ©2200円

豊富な事例とその根拠となる理論、法制度をセットに  
して記述。実践と理論、法制度を双方向に行き来し  
ながら学ぶことができる。



## ソーシャルワーク実践のための カルチュラルコンピテンス

宗教・信仰の違いを乗り越える  
シーラ・ファーネス、フィリップ・ギリガン 著  
陳麗婷 監訳 ISBN978-4-7503-5110-0 ©3500円  
多文化に対応するカルチュラルコンピテンスの教育と  
研究に携わる第一人者が豊富な事例とともに実践に  
もけたフレームワークを提示する。



## ダイレクト・ソーシャルワーク ハンドブック

対人支援の理論と技術  
ディーン・H・ヘブワース、ロナルド・H・ルーニー、  
グレンダ・デューベリー・ルーニー、キム・シュトローム・  
ゴットフリート、ジョアン・ラーセン 著  
武田信子 監訳 ISBN978-4-7503-4171-2 ©25000円



## ソーシャルワーク 人々をエンパワメントする専門職

ブレンダ・デューボワ、カーラ・K・マイリー 著  
北島英治 監訳 上田洋介 訳  
ISBN978-4-7503-4576-5 ©20000円



## ケースで学ぶ 司法犯罪心理学

発達・福祉・コミュニティの視点から  
熊上崇 著 ISBN978-4-7503-5009-7 ©2400円



## 新版 Q&A 少年非行を 知るための基礎知識

親・教師・公認心理師のためのガイドブック  
村尾泰弘 著 ISBN978-4-7503-5002-8 ©1800円



## 発達とレジリエンス 暮らしに宿る魔法の力

アン・マステン 著 上山真知子、J・F・モリス 訳  
ISBN978-4-7503-5019-6 ©3600円



## 大会連絡・確認

1. **大会参加申込**：学会ホームページのトップページからアクセスしてください。  
<https://janphs.jp/> または <https://janphs.jp/meeting/janphs18th-info/>
2. **大会当日参加**：「大会当日 URL」、受付番号、そして「招待・資料 URL」とそのアクセスのためのパスワードは別途お知らせします。
3. **お問い合わせ**：何かお問合せがございましたら、下記、大会事実行委員会事務局までお願いいたします。大会当日は即応できない可能性がありますので2週間前には準備をお願いします。

(1)大会前日まで（12月3日 12：00まで）

Eメールアドレス：[japhs\\_conference@yahoo.co.jp](mailto:japhs_conference@yahoo.co.jp)

TEL 03-5860-4587

第18回大会実行（準備）委員会 委員長 米川和雄（帝京平成大学）

中野区中野 4-21-2 帝京平成大学 1155 米川研究室内

※電話でのお問い合わせにはその場で対応できないことがあります

(2)大会当日（12月4日 10：00～12月6日 15：30まで）

Eメールアドレス：[japhs\\_conference@yahoo.co.jp](mailto:japhs_conference@yahoo.co.jp)

TEL 大会専用ページにて2週間程度前にお知らせします

※当日の回線はつながりにくいこともあり、できるだけ事前にメール等でのご連絡をお願いします

※会場：学会登壇者、研究発表者のみリアル会場として東京家政大学板橋キャンパスを準備しています。

〒173-8602 東京都板橋区加賀 1-18-1

- 12/4(金) 120周年記念館5階511室 9：00-18：00
- 12/5(土) 120周年記念館5階511室 9：00-18：00
- 12/6(日) 120周年記念館6階617室 9：00-18：00

## 日本福祉心理学会 第 18 回大会実行委員会

委員長 米川和雄（帝京平成大学）  
事務局長 金城 悟（東京家政大学）  
次長 稲田文恵（NPO 法人エンパワメント）  
委員 小松美智子（武蔵野大学）  
砂田真理子（つながるえいご online studio in the USA）  
塩澤綾子（社会福祉法人浴風会）  
寺田 翼（社会福祉法人原町成年寮）  
渡會沙織（公益社団法人東京社会福祉士会）  
小出愛実（帝京平成大学）  
島田健太（帝京平成大学）  
和田美言（帝京平成大学）